東京ジャーミイ金曜日のホタバ

ミアラージュの夜

2011 年 6 月 24 日

親愛なるムスリムの皆様。来る６月２８日火曜日の夜は、ラジャブ月の第２７晩であり、ミアラージュの灯明祭（カンディル）の日です。ミアラージュは、預言者ムハンマドの最大の奇跡の一つです。この夜、預言者ムハンマドはマスジド・ハラムからマスジド・アクサへ、そこから崇高な世界へと連れていかれました。この神秘と英知に満ちた旅路について預言者ムハンマドはクルアーンで次のように告げられています。「かれに栄光あれ。そのしもべを、（マッカの）聖なるマスジドから、われが周囲を祝福した至遠の（エルサレムの）マスジドに、夜間、旅をさせた。わが種々の印をかれ（ムハンマド）に示すためである。本当にかれこそは全聴にして全視であられる。」（夜の旅章第１節）

親愛なるムスリムの皆様。崇高なる書が私たちに教えるところによると、ほとんど全ての預言者は神の導きを広く伝える際に甚大な苦労を味わいました。侮辱されたり、気が狂っていると言われたり、魔術師と言われたり、投石されたり、祖国を放棄する必要に迫られたり、さらには殺害された預言者もいました。預言者ムハンマドの布教活動も以前のものとなんら変りはありませんでした。「（大衣に）包る者よ、立ち上って警告しなさい。」（衣に包る者章第１－２節）という命令を受けた時以来、この神聖な布教の苦しみは始まり、それはどんどんひどくなりつつ続いたのでした。

一方で、預言者としての活動の１０年目に、妻のハティージャと困難な時でも支え続けた叔父アブー・ターリブが亡くなり、預言者ムハンマドを悲しませました、そのためこの年は『悲しみの年』と呼ばれました。ちょうどこの時期に、アッラーは愛する預言者ムハンマドを励まし、この崇高な布教の背後のけだかい力を示すため、そして不信心者が望んでいなくてもこの教えは完成させられるという吉報を伝えるため、預言者ムハンマドを天使の世界へと招かれたのでした。

ある晩預言者ムハンマドがカーバにいるとき、ジブラーイールが訪れました。ムハンマドをブラクと呼ばれる乗り物に乗せ、エルサレムへと運ばれました。エルサレムのモスクで２ラカートの礼拝をし、それからジブラーイールは預言者ムハンマドを天へと連れていきました。天の七層を通過する際、以前の預言者の一部と出会いました。被造物の限界を超えた天の玉座で神の御前に招かれ、アッラーはそこでいくつかの章句を与えられました。この中には、日に５回の礼拝の命令も含まれています。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。夜の旅と天空への旅は一つの奇跡です。奇跡は論理で説き明かすことはできません。それらをただ信じるだけなのです。私たちも、ちょうどアブ・バクルが語ったように、「あのお方が言ったのであれば、それは正しいのだ」といい、預言者ムハンマドの告げられたことを疑念を挟むことなく信じます。

ミアラージュの夜、神の豊かな恵みを受ける預言者ムハンマドのウンマとして、この夜の恵みと豊かさ、赦しを受けることができるよう努力しましょう。ミアラージュの最も尊い贈り物であり、教えの柱であり、信者たちのミアラージュであり、私たちの目の光である日に５回の礼拝を放棄しないことを誓いましょう。ミアラージュで最初に寄られた場所であるエルサレムの、そしてそこで迫害されている人々の救いのためにドゥアーをしましょう。

ミアラージュの夜を祝福し、イスラーム世界のための善への要因となることをアッラーに懇願いたします。